第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

人生80年という時代から、人生90年を越えようとする時代を迎えて、本市においても、人口総数に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）が平成32年度(2020年度)で27.8%、平成37年度(2025年度)で28.8%になると予測されます。

このような状況の中、長寿社会の将来像は、高齢者ができる限り健康で、住み慣れた地域でいきいきとした暮らしを送ることができ、たとえ介護や支援が必要となっても、地域全体で支え合うことができる社会を実現することにあります。

この長寿社会を実現するためには、すべての市民が、日々の暮らしの中で、健康づくりや介護・福祉のあり方を意識し、自らの健康や自立した生活を維持していくことが基本となります。そのうえで、一人ひとりの努力だけでは自立した生活を維持できない場合に、その暮らしを支える仕組みを考えていく必要があります。

今後、一層の高齢化の進展に伴い、介護を必要とする高齢者が増加しますが、その一方で、元気な高齢者も増加していることから、高齢者を保健福祉サービスの受け手としてとらえるだけでなく、地域社会の重要な担い手として位置づけて、その積極的な参加・参画を支援することができる仕組みづくりが求められています。

本計画では、以上のような状況を踏まえて、これまでの計画の基本理念である「健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚」を継承し、その実現に向けて高齢者施策を推進していくものとします。

**健康で、安心して自分らしくいきいきと
暮らし続けられるまち宝塚**

2 基本方針と施策の体系

『健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚』を実現するため、以下の3つの基本方針を定め、市民・関係団体・事業者・行政の協働により、高齢者施策を展開していきます。

(1) 自分らしくいきいきと暮らせる高齢者のいきがづくり

〔エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画の第4・6・7・8分野〕※ 5頁参照

高齢者自らが、積極的に健康づくりや介護予防に取り組み、できるだけ長い間、要介護状態となることを予防できるよう、生活習慣の改善や自立した日常生活に関する意識啓発、地域における健康づくりや介護予防の活動への支援に努めます。

また、高齢者が、地域社会の一員として様々な活動に積極的に参加し、いきいきと暮らせるよう、就労をはじめとする社会参加の促進、文化・学習・スポーツ活動を活性化させ、豊かな知識と経験が活かせる機会を提供するなど、高齢者のいきがづくりを推進します。

(2) 住み慣れた地域で暮らし続けられる生活支援体制の構築

〔エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画の第1・2・3・5・7・8分野〕

高齢者が、要介護状態になることを予防し、要介護状態になっても可能な限り地域で安心して暮らし続けられるよう、生活支援などのサービスの充実に努めます。

また、認知症の正しい知識の普及、早期発見・早期対応、認知症に対応したサービスの提供などの施策を総合的に推進し、地域ぐるみで認知症の人や家族を支える仕組みづくりを推進します。

高齢者が安心して暮らせる生活環境を整備するため、高齢者の居住に配慮した住まいの整備を促進し、住宅及び公共空間のバリアフリー化や、公共交通などの移動手段の確保、地域をあげた防災・防犯対策などの推進に努めます。

さらには、地域における支えあい体制を充実させ、地域包括支援センター等における取組を強化するなど、「地域包括ケアシステム」の構築に向けた取組を推進します。

そのほか、誰もが地域で安心して暮らすことができるよう、高齢者の虐待を防止し、成年後見制度を活用するなど、地域や施設等で高齢者の尊厳と権利を擁護する取組を推進するとともに、その仕組みづくりを推進します。

(3) 介護が必要になっても安心して暮らせるサービスの充実

〔エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画の第7・8分野〕

高齢者が、介護が必要になっても地域で安心して暮らすことができるよう、在宅医療・介護の連携を推進するとともに、これからの備えとして、自分の終末期の過ごし方や看取りについて、理解するための取組を推進します。併せて、介護保険サービスの量と質の確保に努めるとともに、被保険者が利用しやすい介護保険制度とするため、介護給付の適正化や低所得者対策、事業者への適正な指導監督などの取組を推進します。

また、介護保険財政において、その均衡と健全性を確保し、介護サービスの適切な利用を支援するとともに、介護サービスの質の向上を図ることにより、介護保険制度への信頼の確保に努めます。

施策の体系

健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚	1 自分らしくいきいきと暮らせる高齢者のいきいきづくり	(1) 健康づくり・介護予防の推進	ア 健康づくり・生活習慣病予防の推進 (ア) 健康教育の推進と意識の啓発 (イ) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の強化 イ 介護予防の推進
		(2) いきがいづくりの促進	ア 社会参加・交流の促進 (ア) 交流機会の充実 (イ) 老人クラブ活動の支援 (ウ) ボランティア・NPO活動への参加促進 イ 生涯学習等の推進 ウ 雇用・就労への支援
2 住み慣れた地域で暮らし続けられる生活支援体制の構築		(1) 在宅生活を支える多様な支援の充実	ア 生活支援サービスの充実 イ 介護家族の支援
		(2) 安心して住み続けられる住まい・まちづくり	ア 住まいの確保・居住環境の向上 イ 暮らしやすい生活環境づくり ウ 生活安全対策の推進 (ア) 防災・防火対策の充実 (イ) 消費者被害の防止・防犯対策の充実
		(3) 地域で支え合う仕組みづくり	ア 地域の見守り体制の整備 イ 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置
		(4) 地域包括支援センターの機能強化	ア 地域包括支援センター機能強化に向けた体制整備
		(5) 地域ケア会議の推進	ア 地域包括ケアシステムの推進に向けた地域ケア会議の充実 イ 自立支援に資する地域ケア個別会議の実施
		(6) 認知症施策の推進	ア 認知症の予防・早期発見の推進 イ 認知症地域連携体制の強化 ウ 認知症ケア人材の育成 エ 若年性認知症施策の推進
		(7) 高齢者の権利擁護と虐待防止	ア 高齢者の権利擁護の推進 イ 虐待や暴力の防止に向けた取組の充実

健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚	3 介護が必要になっても安心して暮らせるサービスの充実	(1) 医療・介護の連携	ア 在宅医療の充実 イ 医療と介護の連携強化
		(2) 介護サービスの基盤整備	ア 基盤整備に当たっての基本方針 イ 施設・居住系サービス ウ 地域密着型介護サービス
		(3) 地域支援事業の充実	ア 介護予防・日常生活支援総合事業 (ア) 総合事業の概要 (イ) 総合事業の開始 (ウ) 事業量推計 (エ) 第7期の総合事業の取組
			イ 一般介護予防事業 (ア) 介護予防普及啓発事業 (イ) 地域介護予防活動支援事業
			ウ 包括的支援事業（地域包括支援センターの運営） (ア) 介護予防ケアマネジメント事業 (イ) 総合相談支援業務 (ウ) 権利擁護業務 (エ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
			エ 包括的支援事業（社会保障充実分） (ア) 在宅医療・介護連携推進事業 (イ) 生活支援体制整備事業 (ウ) 認知症総合支援事業 (エ) 地域ケア会議推進事業
			オ 任意事業 (ア) 介護給付等費用適正化事業 (イ) 家族介護支援事業 (ウ) その他の事業
		(4) 介護保険事業の円滑な運営	ア 低所得者への配慮等 イ 介護給付の適正化 ウ 介護人材の育成、確保 (ア) 人材確保に向けた事業者支援等の充実 (イ) 人材の定着支援
		(5) サービスの質の向上	ア 相談体制の充実 (ア) 地域包括支援センター (イ) 介護サービスに対する苦情相談 (ウ) 介護相談員
			イ ケアマネジャーへの支援

3 重点取組

今回の介護サービスに関するアンケートの結果では、現在利用している介護サービスの内容や質について約8割の人が満足しています。その一方で、「健康づくり活動等への参加意欲は高いものの、きっかけがないことを理由に参加できていない」、「認知症になっても気軽に立ち寄れる居場所を必要としている方が8割を占める」などといった現状があり、また、在宅生活を継続するため、在宅医療と介護の連携を求める声が多いことなどが明らかになっています。

また、本市の地勢的な特徴として、高度成長期に斜面丘陵地にニュータウンが開発され、時代の推移とともに高齢化が進む中、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、老老介護による負担の増加や商業施設、医療機関へのアクセスが困難になるなどの問題を抱える方が増えることが想定されるため、地域ごとの特性に応じた課題に対処していく必要があります。

「エイジフレンドリーシティ宝塚行動計画」は、あらゆる世代がお互いの存在を認め合い、支え合い、将来につながる地域社会を創造することを基本としており、本計画の基本理念では、「健康で、安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられるまち宝塚」としていることから、医療や介護の専門職が、地域とともに、高齢者や家族を支えあう関係性をこれまで以上に築いていくことが必要です。

以上のことを念頭に置きながら、本計画では、次の3つの重点取組を実施していきます。

重点取組1：介護予防の推進

高齢者が社会に参加し、健康でいきがいのある生活を送れるよう、介護予防の取組を全市的に広めるとともに、誰もが身近な地域で参加できるよう、介護予防の場の創出に取り組みます。

評価指標

指 標	現 状	計 画		
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
65歳以上新規認定者の認定申請時年齢	79.8歳	80.1歳	80.4歳	80.8歳
通いの場への参加率（通いの場の参加者人数／高齢者人口）	3.6% (平成27年度)	7.5%	8.8%	10.0%
「いきいき百歳体操」地域展開数	100か所	130か所	150か所	160か所

具体的な取組（主なもの）

- 地域版健康づくり教室や介護予防教室等の実施
- 特定健康診査、がん検診、後期高齢者健康診査の意義や重要性の啓発、受診率の向上
- 生活習慣病重症化予防事業、服薬適正化勧奨事業など、被保険者の健康状態に即したより効果的、効率的な保健事業の実施
- 「いきいき百歳体操」の参加者が集うことができる場所の確保支援
- 介護予防サポーター養成講座の開催など、介護予防事業に関わるボランティア等の人材育成や、地域活動組織の育成支援

重点取組2：認知症施策の推進

認知症になっても本人の意思が尊重され、安心して住み慣れた地域で生活ができるよう、地域で支える仕組みづくりに取り組みます。

評価指標

指 標	現 状	計 画		
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
「認知症は病気だと思いますか」の問いに対し、「病気だと思う」と回答した方の割合	53.1%	上昇	上昇	上昇
「認知症は病気だと思いますか」の問いに対し、「病気だと思わない」と回答した方の割合	8.8%	下降	下降	下降
認知症サポーター養成講座受講者数（累計）	11,500人	13,000人	14,500人	16,000人
認知症サポーター養成講座ステップアップ編 受講者数（累計）	11人	30人	50人	70人

具体的な取組（主なもの）

- 認知症ケアパスの普及と充実
- 認知症の人や家族等へのきめ細かな情報提供・相談支援や居場所づくり
- 認知症サポーターの計画的養成
- 認知症サポーターのステップアップやスキルアップ研修を実施
- 若年性認知症の早期発見、早期対応等に関する正しい知識の普及啓発と理解の促進
- 若年性認知症当事者支援のネットワークづくり

重点取組3：在宅医療・介護連携の推進

高齢者が住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができるよう、医療・介護が相互に連携し、切れ目のない在宅医療・介護サービスが提供できる体制づくりに取り組みます。

評価指標

指 標	現 状	計 画		
	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
「人生の最期を迎えるときが来た場合、最期はどこで過ごしたいと思いますか」との問に対して、「最期まで自宅で過ごしたい」と回答した方の割合	33.2%	上昇	上昇	上昇
居宅介護支援の受給者における入院時情報連携件数（月）	309 (平成29年10月実績)	上昇	上昇	上昇

具体的な取組（主なもの）

- 在宅医療に関わる医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護ステーション等の地域の医療資源の情報収集と発信
- 宝塚市医師会在宅療養支援センターや医療機関の地域連携部門との連携強化
- 退院調整、日常の療養支援、急変時の受け入れ先の調整、看取り等における関係者の連携強化